



R-760

光電式警報接点付ガラス管流量計

IM-F2078-J00

## 取扱説明書

R-760

光電式警報接点付ガラス管流量計

目次

はじめにお読みください

■ 本書で使用しているマークについて.....	I
■ 一般的な注意事項.....	I
■ 電氣的接続について.....	II
■ 材質について.....	II
■ 製品の一部にガラス、樹脂を使用している製品について.....	II
■ ガラス管・樹脂管面積流量計の使用について.....	III
■ 防爆仕様で納入された製品について.....	III
■ 保守、点検について.....	III

1. 製品概要.....	1	7. 運転.....	4
2. 外形寸法.....	1	7.1 ライン耐圧試験.....	4
3. 受け入れ.....	1	7.2 運転開始.....	4
4. 製品梱包様式と保管・取扱.....	1	7.3 許容温度衝撃.....	4
4.1 梱包様式.....	1	7.4 流量の見方.....	4
4.2 取扱.....	1	7.5 凍結防止.....	4
4.3 テーパ管内のフロート・仮固定.....	1	7.6 逆圧防止.....	4
4.4 保管.....	1	7.7 流量の補正.....	4
5. 設置.....	2	7.7.1 液体計測仕様.....	5
5.1 設置準備.....	2	7.7.2 気体計測仕様.....	5
5.2 配管準備.....	2	8. 保守.....	6
5.3 設置場所の選定.....	2	8.1 定期点検項目.....	6
5.4 上下流直管長.....	2	8.2 分解と再組立.....	6
5.5 脈動流.....	2	8.3 警報発信器の点検.....	7
5.6 配管振動.....	2	9. 予備品.....	7
5.7 含有固形物.....	2		
5.8 取付角度.....	2		
5.9 バイパス配管.....	2		
5.10 振動防止ビニールチューブなどの除去.....	3		
5.11 冬期テーパ管の破損防止対策.....	3		
5.12 配管のフラッシング.....	3		
5.13 配管への取り付け.....	3		
6. 警報発信器の結線と調整.....	3		
6.1 警報発信器の結線.....	3		
6.2 警報発信点の調整.....	3		

## はじめにお読みください

このたびは弊社製品をご採用いただき、誠にありがとうございます。

この取扱説明書には本製品の設置方法、取扱い上の注意事項等が記載されていますので、ご使用前に必ずご一読ください。

### ■ 本書で使用しているマークについて

本書は、弊社製品のご使用に際しお客様にご注意いただきたい内容について記載しています。

この記載内容は弊社全製品に共通する事項となります。

次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。



この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷を負う可能性が想定される場合、および、物的損害の発生が想定される」内容です。



弊社製品を安全かつ正しくご使用いただくための内容です。

### ■ 一般的な注意事項



- 弊社製品は工業計器としての用途にのみ使用し、その他の用途には使用しないでください。
- 弊社製品は工業計器として最善の品質管理のもとに製造、調整、検査を行い納入いたしております。みだりに改造や変更を行うと本来の性能を発揮できないばかりか、不具合や事故の原因となりますので改造や変更は行わないでください。改造や変更の必要がある場合は弊社営業までご連絡ください。
- 仕様書に記載された仕様範囲内でのご使用を厳守してください。この範囲を超えた条件でのご使用は故障、破損の原因となります。
- 設置作業の際は必ず安全靴、手袋、保護メガネなどの防護手段を講じてください。
- 重量の大きな製品の設置時に、落下による人体・器物などへの損傷または過大な衝撃、破損などが生じないように吊下方法を含めた安全措置を行ってください。弊社製品設置時にはプラントあるいは装置の停止などの安全を充分確認して、製品設置箇所では配管サポート等の処置を行って設置作業を行なってください。



- 運搬の際には弊社出荷時の梱包状態で行ってください。運搬作業時は製品の落下による人体・器物などへの損傷または過大な衝撃による破損などが生じないように安全措置を行ってください。
- 開梱後、製品の中には、水、埃、砂などを入れないでください。
- プロセスへの設置・接続に必要な締結部品のボルト、ナット、ガスケット（パッキン）は、原則としてお客様がご用意ください。その場合、圧力、温度および耐食性などの仕様をご確認のうえ選定・ご使用してください。
- プロセスへの設置・接続に際しては、接続配管との偏芯、フランジの倒れがないように設置し、接続継手の規格・寸法合わせを正しく行ない接続してください。正しく行われない場合、製品の故障、誤動作、破損などの原因となります。



**注記**

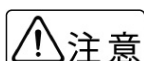
- 保管の際には弊社出荷時の梱包状態で保管ください。保管の環境につきましては本書を参照ください。
- 設置後、製品を「足場」として使用するなど、荷重を掛けた場合は故障、破損の原因となりますので、絶対に行わないでください。
- 製品に貼付されているラベルに表示されている注意事項は、必ず守ってください。
- 弊社製品は最善の品質管理のもとに製造、調整、検査を行い納入いたしておりますが、各種の要因で不測の故障が発生する可能性もあります。運転・安全上の重大な問題が発生する可能性のあるプロセスなどにおいて弊社製品を使用する場合は、万一に備えて弊社製品に加えて同様な機能を果たす機器を併設、二重化を行うなど、より一層の安全性の確保を推奨いたします。

■ 電気的接続について



**警告**

- 電気配線（結線）に際しては仕様書、本書などに記載されている内容を確認のうえ、正しく配線（結線）してください。誤配線（結線）は機器の故障の原因となるばかりでなく、事故の原因となることがあります。また、配線（結線）作業の際は電源が遮断されていることを確認し感電にご注意ください。
- 電源を接続する製品の場合は、仕様書、本書を参照して電圧および消費電力を確認して適合する電源を接続してください。適合する電源以外の電圧の電源に接続した場合、機器の破損や作動の不具合、事故につながる恐れがあります。
- 通電中は、感電事故防止のため内部の機器には絶対に触れないでください。



**注意**

- 設置工事から電気配線作業完了にいたる間、雨水などが製品内に入らないようご注意ください。また、配線完了後は遅滞なく正しく防水措置を実施してください。

■ 材質について



**注意**

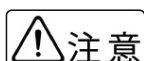
- 製品の材質については仕様書に記載されています。弊社ではお客様よりご指示いただいたご仕様、ご指定またはお打合せにより最適な材質選定に努めておりますが、実際のプロセスにおけるご使用条件・運転条件につきましては知見できないこともあります。最終的な耐食性、適合性のご確認はお客様の責任でお願いいたします。

■ ガラス、樹脂を使用している製品について



**警告**

- 製品の接液部または測定部、表示部の材質にガラス、樹脂を使用している場合、過度の加圧、温度衝撃、急激な流体の流入の衝撃圧などにより製品のガラス、樹脂が破損する場合があります。万が一破損した場合、ガラス、樹脂などの破片が飛散するなどして二次災害および作業者に危険が及ぶ恐れがあります。破損の原因となるような運転条件にならないようご注意ください。また、飛散防止の措置をお願いいたします。



**注意**

- 運搬、保管および運転に際しては、機械的衝撃をガラス部、樹脂部に与えないようご注意ください。
- ガラスはアルカリ系溶剤で侵食されます。アルカリ系溶剤は使用しないでください。
- 樹脂は溶剤系の液体で破損することがあります。仕様書、本書などに記載されている流体以外には使用しないでください。
- 樹脂は使用環境により劣化が早まることがあります。設置ならびに運転にあたっては、樹脂の耐食性、紫外線耐性などの耐環境性に考慮してください。

## ■ ガラス管・樹脂管面積流量計の使用について

ガラス管・樹脂管面積流量計は以下の事項に配慮して使用してください。



- 以下の流体条件および使用環境では、ガラス管・樹脂管面積流量計は不適ですので設置しないでください。
  - ・衝撃圧力がある、あるいは衝撃圧力が予想される流体ライン
  - ・万が一ガラス管/樹脂管が破損した場合、二次的な災害が予想されるライン
    - －毒性（刺激性、麻酔性などを含む）のある流体
    - －引火性のある流体
    - －爆発性のある流体
  - ・ガラスが破損した時にガラス片が飛散し、人身事故などが考えられる場合
  - ・設置場所が、外部からの飛散してきた異物などでガラスの破損が考えられる場合
  - ・運転が ON/OFF 運転で、フロートが急上昇し、その衝撃でガラスが破損すると考えられる場合
  - ・流量計に温度衝撃（急冷/急騰）が加わる、あるいは温度衝撃が予想されるライン

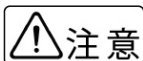


- 接液部または測定部にガラスおよび樹脂を使用している製品において、運転停止に伴い流れが停止した場合、測定液体が測定管内に残留して周囲温度が氷点下になると（一般的には冬期に運転停止して液抜きをしないなど）液体が凍結してガラス、樹脂を破損する恐れがあります。運転停止中に測定液体が凍結する恐れがある場合は、液体を完全に抜き取ってください。
- 樹脂は一般的に金属に比較して機械強度が低く、取扱いには注意が必要です。設置に際しては接続配管・継手の寸法違い、偏芯、過大な締結トルクでねじ込むことなどによる機械的応力が加わらないようご注意ください。

## ■ 防爆仕様で納入された製品について



- 該当する法規・規則・指針に適合した配線、接地工事を確実に実施してください。また、構造の改造、電気回路の変更などは法令違反および規則・指針に適合しなくなりますので、絶対に行わないでください。保守・点検につきましては法令・規則・指針に従い、作業を実施してください。



- 製品の防爆等級は、仕様書、製品の銘板に記載してあります。設置場所は防爆関連法規・規則・指針に従い、お客様にて対象ガスに応じて選定してください。

## ■ 保守、点検について



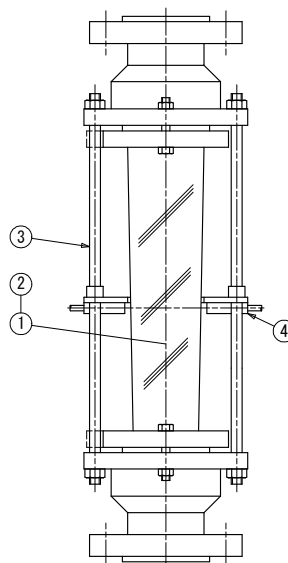
- 製品を保守、点検などでプロセスから取外す際は、測定対象の危険性・毒性に留意して関連する配管・機器類からの漏れおよび残留などにより人体・機器類への損傷が生じないように、安全を確認して作業を行ってください。また、電気を使用している製品は感電事故防止のため電源が遮断されていることを確認し作業を行ってください。



- 製品の保守、点検については使用条件などによりその周期、内容が異なります。本書を参照するか、お客様が実際の運転状況を確認してご判断をお願いいたします。

## 1. 製品概要

R-760 シリーズ流量直示・警報接点付フローメータは透明・耐食性テーパ管・フロートをを使用した面積流量計です。配管部に鉛直に接続して取り付けたフローメータに下から上に流体を流すと、フロートは上昇して、流量に応じた点で静止します。このときフロートの上面を指標線としてテーパ管の目盛を読めば、流量を確認することができます。また、右図のとおりテーパ管をはさむように光電スイッチ方式の投光器・受光器を取り付けし、フロートが設定警報点に接近するとフロートが投光器からの光をさえぎり警報発信します。



番号	名称
①	テーパ管
②	フロート
③	支柱
④	光電スイッチ (投・受光器)

## 2. 外形寸法

外形寸法はメータサイズによって変わります。配管設計または光電スイッチの定格仕様については、納入仕様書を確認してください。

## 3. 受け入れ

製品受領後、下記内容を点検してください。問題があった場合は直ちにお買い求め先にご連絡ください。

- ・製品形式
- ・仕様
- ・数量
- ・輸送中の破損など

## 4. 製品梱包様式と保管・取扱

### 4.1 梱包様式

ダンボール箱にパッキング材を詰め、その中心部にフローメータを横置しています。

### 4.2 取扱

梱包を放り投げると衝撃でテーパ管が破損する場合や、フロート軸が曲がる恐れがあります。

### 4.3 テーパ管内のフロート・仮固定

フロートは輸送時テーパ管内の急激な振動ショックで動揺しないようにビニールチューブなどで仮固定してあります。開梱後取り除いてください。

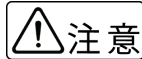
### 4.4 保管

製品を保管する場合は、下記条件の場所を選定してください。

- ・雨水等で濡れない場所。
- ・温度変化の少ない清潔で乾燥した風通しのよい場所
- ・振動の少ない場所
- ・落下や機械的衝撃のないこと
- ・腐食性雰囲気のないこと
- ・直射日光が当たらないこと

## 5. 設置

### 5.1 設置準備



- 配管への取り付けに関するボルト、ナット及びガスケットはご注文時ご指示の無い限り、お客様の所掌となります。
- 設置作業に際しては、適度な運搬、吊り上げ手段を準備してください。特に口径の大きな製品ではかなりの製品質量となるので注意してください。

### 5.2 配管準備

設置する配管は、納入仕様書で寸法を確認し、準備してください。

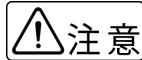
### 5.3 設置場所の選定

設置場所の選定に際しては指示部が見やすい場所に設置することを推奨します。指示部（テーパ管及び、目盛）が目の高さであれば読み取りやすい位置となります。

### 5.4 上下流直管長

他の流速検出形と異なり、本器の上下流には直管部分をとる必要はありません。

### 5.5 脈動流



- 特に気体計測仕様で、電磁弁などにより急激なライン開閉を行うと、フロートがフロートストップに繰り返し衝突し、最終的にはフロート、テーパ管の破損に繋がる場合があります。なんらかの緩衝対策を検討してください。

### 5.6 配管振動

配管振動が予想される場合には、配管サポートなどにより振動防止対策を行ってください。

### 5.7 含有固形物

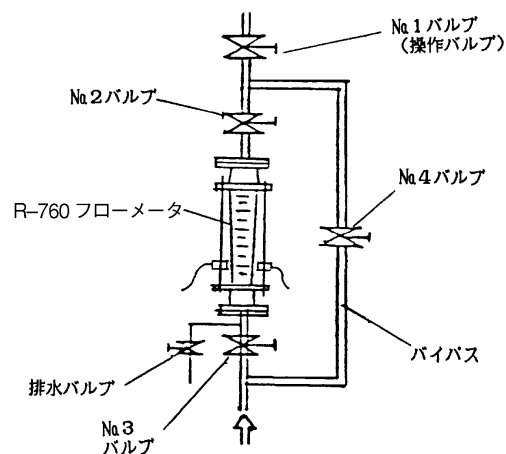
流体中に固形物があるとフロートの動作を阻害して、精度誤差や故障の原因となります。上流側にストレーナ（100メッシュ程度）を設置するなどして固形物を除去してください。

### 5.8 取付角度

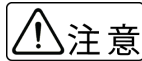
テーパ管が垂直となるように設置してください。許容誤差 $2^{\circ}$ 以内。傾いて設置すると、精度誤差や動作不良の原因となります。

### 5.9 バイパス配管

流量計のメンテナンスのために右図のようなバイパス配管をとることを推奨します。



## 5.10 振動防止ビニールチューブなどの除去



- 輸送中のフロートの振動を防止するために、テーパ管内にビニールチューブ等を挿入してあります。設置に際してはこれを取り除いてください。

## 5.11 冬期テーパ管の破損防止対策

冬期作業休止時にテーパ管内の水等液体の凍結によりテーパ管の破損の恐れがあるときは、排水バルブを付設することを推奨します。

## 5.12 配管のフラッシング

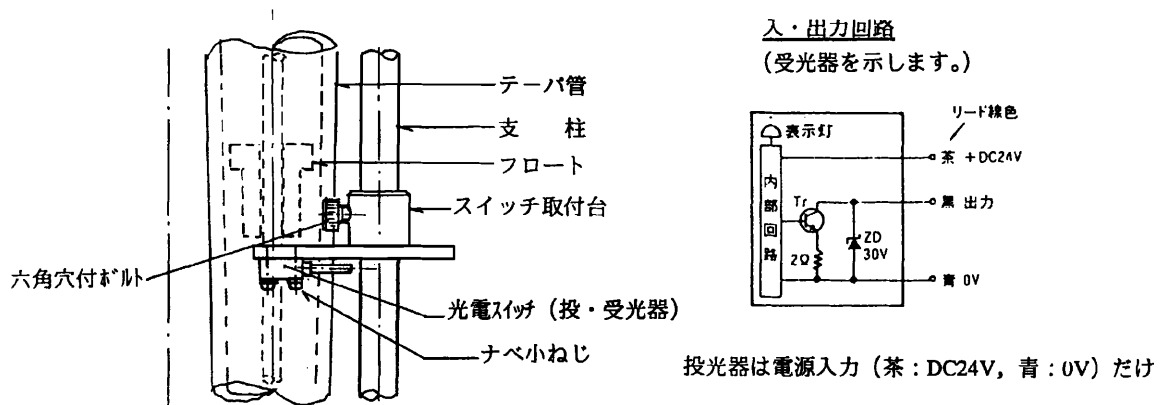
運転開始前に配管全体をフラッシングし、流量計へのゴミ、ほこり等の異物の混入を防止してください。ゴミ、ほこり等が流量計内に入ると、詰まりの原因となり、正常動作しないことがあります。フラッシングに際しては、流量計側のバルブを閉じ、バイパス側のバルブを開けて実施します。

## 5.13 配管への取り付け

- 1) ガasketを正しく挿入し、ボルト、ナットで配管フランジに取り付けます。
- 2) 片締めとならないように、対角線のボルトを順次均等に締め付けます。
- 3) 配管の芯ずれやフランジの傾きは必ず修正してください。無理に設置すると破損の原因となります。
- 4) PVC など特殊樹脂製材質の製品の場合、製品に無理な応力がかからないように注意してください。
- 5) 特注のネジ接続の場合は適当なユニオンを用いて正しく接続してください。

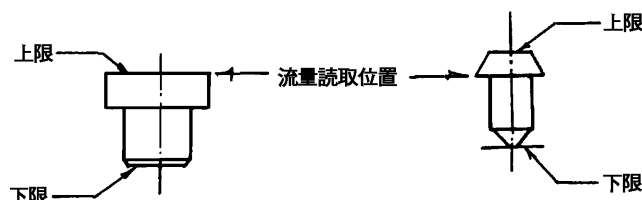
## 6. 警報発信器の結線と調整

### 6.1 警報発信器の結線



### 6.2 警報発信点の調整

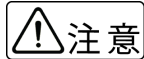
- 1) 警報発信点は客先仕様に基づいてあらかじめ設定されています。
- 2) 発信点のチェックをする時は、バルブで流量を調整し、フロートを設定警報流量の位置まで移動させます。スイッチが作動することをテスター等で確認してください。
- 3) 警報点を変更する時は六角穴付ボルトをゆるめセンサー取付台 (投・受光器) をテーパ管の新警報流量目盛に合う位置まで移動させます。下図の位置で光軸が遮断されるよう繰り返し微調整を行い、センサーが設定点で確実に作動することをテスター等にて確認してください。





## 7. 運転

### 7.1 ライン耐圧試験

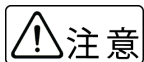


標準の耐圧試験は下記の通り実施しています。  
 流体が液体の場合  
 使用設計圧力×1.5(最低 0.5MPa)  
 流体がガスの場合  
 使用設計圧力×1.25(最低 0.5MPa)  
 これを超える圧力でライン耐圧試験を実施される場合はお問合せください。

### 7.2 運転開始

上流側のバルブを全開にし、次いで下流側のバルブを徐々に開き流体を流します。流体の導入に従いフロートが上昇し流量を表示します。

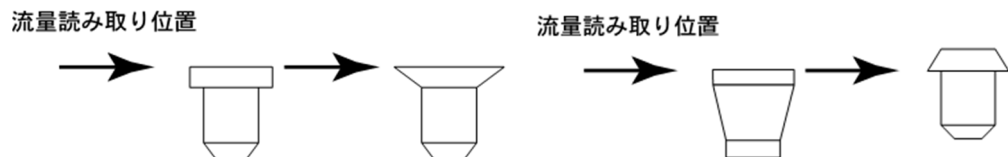
### 7.3 許容温度衝撃



ガラス管式のため許容温度衝撃は80℃です。流量計が冷えた状態で熱水を流したり、高温洗浄後、急激に冷水を流したりすると、テーパ管が破損することがあります。注意してください。

### 7.4 流量の見方

フロート位置とガラス管上の目盛で瞬時流量を表示します。有効目盛範囲は 10:1 です。0 からフルスケールの 10% までは精度保証範囲外です。目盛は大流量および桁数の多い場合は×10m<sup>3</sup>/h(nor)などの乗数表記となっている場合もあります。また、流量単位はガラステーパ管の目盛の左側に記載されています。



### 7.5 凍結防止



流体計測仕様で冬季に運転を休止する場合は、必ず配管から流体を抜き、テーパ管内に流体が滞留しないようにしてください。テーパ管内に流体が入ったまま凍結すると、テーパ管が破損します。注意してください。

### 7.6 逆圧防止

フロートが流量計の最下点にある状態では、フロートとテーパ管のクリアランスが極めて小さく、流体が上流側へ抜けにくく(逆流しにくく)なります。この状態で逆圧が掛かるとフロートストップやテーパ管の破損につながる可能性がありますので、注意してください。

### 7.7 流量の補正

R-760 シリーズでは原理的に流体の物性値が設計条件と異なると誤差が発生します。次のページに補正方法を示します。

### 7.7.1 液体計測仕様

#### ● 設計条件と異なる密度の液体を計測する場合

$$\text{換算係数 } C\gamma = \sqrt{\{(Y_f - \gamma) \times \gamma_0\} / \{(Y_f - \gamma_0) \times \gamma\}}$$

$$Q = Q_0 \times C\gamma$$

$\gamma_f$  : フロート密度  
 ステンレス製フロートの場合  $\gamma_f = 7.9$   
 他材質製フロートの場合は形式によって異なります。補正が必要な場合はお問い合わせください。

$\gamma_0$  : 設計密度  
 $\gamma$  : 計測流体の密度  
 $Q$  : 補正体積流量 (真流量)  
 $Q_0$  : 指示流量

#### 換算例

水用(密度  $1.0\text{g/cm}^3$ )で設計された流量計でアルコール(密度  $0.8\text{g/cm}^3$ )を計測する場合。流量計が  $1\text{m}^3/\text{h}$  を示している時、当該液体での真流量は(ステンレス製フロート)

$$Q = 1\text{m}^3/\text{h} \times C\gamma$$

$$= 1\text{m}^3/\text{h} \times \sqrt{\{(7.9 - 0.8) \times 1.0\} / \{(7.9 - 1.0) \times 0.8\}}$$

$$= 1\text{m}^3/\text{h} \times 1.13$$

$$= 1.13\text{m}^3/\text{h}$$

#### ● 設計条件と異なる粘度の液体を計測する場合

コンピュータによる補正計算が必要です。お問い合わせください。

### 7.7.2 気体計測仕様

#### ● 設計条件と異なる密度の気体を計測する場合

$$\text{換算係数 } C\gamma = \sqrt{\gamma_0 / \gamma}$$

$$Q = Q_0 \times C\gamma$$

$\gamma_0$  : 設計密度(空気の場合  $1.293\text{kg/m}^3(\text{nor})$ )  
 $\gamma$  : 計測流体の密度  
 $Q$  : 補正標準状態流量  
 $Q_0$  : 指示標準状態流量

#### 換算例

空気(密度  $1.293\text{kg/m}^3(\text{nor})$ )で校正された流量計を炭酸ガス(密度  $1.977\text{kg/m}^3(\text{nor})$ )に使用し、 $1\text{m}^3/\text{h}(\text{nor})$  を示している時、当該気体での真流量は

$$Q = 1\text{m}^3/\text{h}(\text{nor}) \times C\gamma$$

$$= 1\text{m}^3/\text{h}(\text{nor}) \times \sqrt{1.293/1.977}$$

$$= 1\text{m}^3/\text{h}(\text{nor}) \times 0.81$$

$$= 0.81\text{m}^3/\text{h}(\text{nor})$$

#### ● 設計条件と異なる圧力の気体を計測する場合

$$\text{換算係数 } C_p = \sqrt{(0.1013+P)/(0.1013+P_0)}$$

$P_0$  : 設計圧力(MPa)  
 $P$  : 運転圧力(MPa)

#### 換算例

$0.2\text{MPa}$  用に設計された流量計を  $0.4\text{MPa}$  の運転圧力で使用する場合、流量計が  $1\text{m}^3/\text{h}(\text{nor})$  を示している時、当該圧力での真流量は

$$Q = 1\text{m}^3/\text{h}(\text{nor}) \times C_p$$

$$= 1\text{m}^3/\text{h}(\text{nor}) \times \sqrt{(0.1013+0.4)/(0.1013+0.2)}$$

$$= 1\text{m}^3/\text{h}(\text{nor}) \times 1.29$$

$$= 1.29\text{m}^3/\text{h}(\text{nor})$$

#### ● 設計条件と異なる温度の気体を計測する場合

$$\text{換算係数 } C_t = \sqrt{(273+t_0)/(273+t)}$$

$t_0$  : 設計温度( $^{\circ}\text{C}$ )  
 $t$  : 運転温度( $^{\circ}\text{C}$ )

#### 換算例

$20^{\circ}\text{C}$  用に設計された流量計を  $40^{\circ}\text{C}$  の運転温度で使用する場合、流量計が  $1\text{m}^3/\text{h}(\text{nor})$  を示している時、当該温度での真流量は

$$Q = 1\text{m}^3/\text{h}(\text{nor}) \times C_t$$

$$= 1\text{m}^3/\text{h}(\text{nor}) \times \sqrt{(273+20)/(273+40)}$$

$$= 1\text{m}^3/\text{h}(\text{nor}) \times 0.97$$

$$= 0.97\text{m}^3/\text{h}(\text{nor})$$

## 8. 保守

### 8.1 定期点検項目

右表に標準的な保守項目、周期を示します。  
この周期は流体仕様や使用条件で異なります。  
実際の運転条件を勘案して周期、内容を決定  
してください。

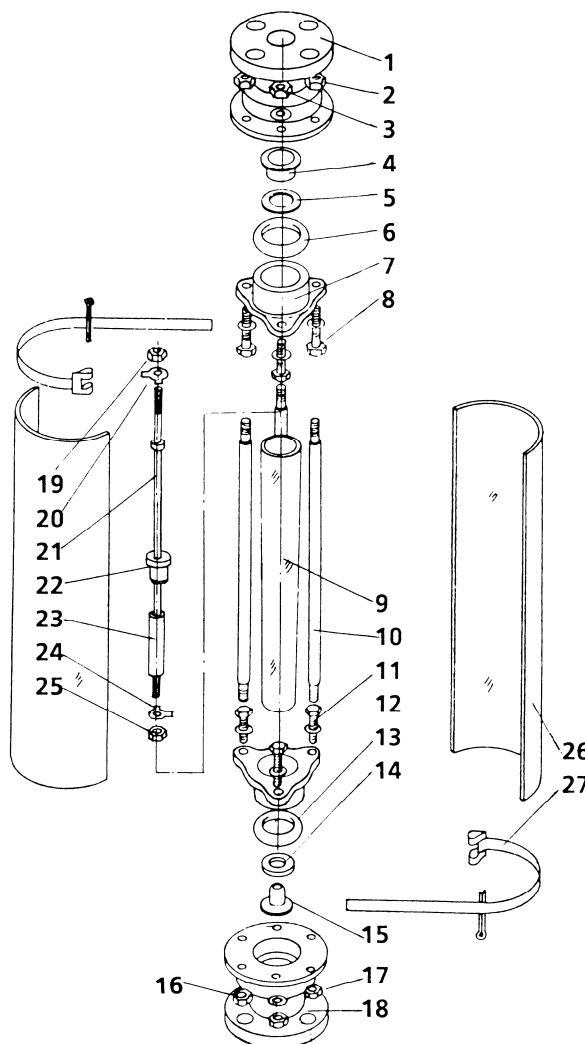
保守、点検項目	方法	一般的周期
漏れ等の有無	目視	12ヶ月
配線口シールの確認	目視	12ヶ月
内部腐食の有無	分解、点検	定修時
内部堆積の有無	分解、点検	定修時

### 8.2 分解と再組立

清掃などのために分解、再組立が必要な場合は下記の展開図を参照して実施してください。  
テーパ管内に汚れや堆積が見られる場合は清掃を実施してください。



- 指示計の取り外しに際しては、残留流体に注意してください。  
毒性、腐食性がある場合、作業者に危険がおよびます。
- No.26 カバー、No.27 カバー固定金具はオプションです。装備されていない場合もあります。  
※ 流量計サイズにより No.21 フロート軸はありません。  
No.22 フロートのみがテーパ管内に挿入されています。
- 再組立てに際しては各構成部品の同芯性に注意してください。
- 本製品はゴム、樹脂、ガラス等を使用しています。  
洗浄の際は使用している材質を確認の上、腐食、変質、劣化等が生じない洗浄剤を使用してください。



番号	部品名称
1	上部本体
2	ナット(支柱固定用)
3	ナット(パッキン押え固定用)
4	フロートストップ
5	シートパッキン
6	Oリング
7	パッキン押え(上)
8	ボルト(パッキン押え固定用)
9	テーパ管
10	支柱
11	ボルト(パッキン押え固定用)
12	パッキン押え(下)
13	Oリング
14	シートパッキン
15	フロートストップ
16	ナット(パッキン押え固定用)
17	ナット(支柱固定用)
18	下部本体
19	ナット(フロート軸固定用)
20	舌付き座金
21	フロート軸
22	フロート
23	フロートストップ
24	舌付き座金
25	ナット(フロート軸固定用)
26	カバー
27	カバー固定金具

※フロート軸の無い機種

形式・仕様	メータサイズ
*R-761(Liq 用)	25A 以下
*R-761(GAS 用)	15A 以下
R-761-R(リップ付テーパ管)	全サイズ

### 8.3 警報発信器の点検

光電スイッチは以下のような取付け場所は誤動作の原因となるので注意してください。

投・受光器が汚れた場合は清掃を行ってください。

- ・ 塵埃の多い場所
- ・ 腐食性ガスの発生する場所
- ・ 振動・衝撃のある場所
- ・ 水、油、薬品が直接飛散する場所
- ・ 配線が強電回路の近く又は並設している場所
- ・ 誘導発生源の近く

動作しない時は次の点を確認してください。

- ・ 配線及び接続は指定どおりか。
- ・ 端子ネジにゆるみ等がないか。
- ・ 光軸調整ができていないか。
- ・ 誘導電圧等が影響していないか。
- ・ 検出物体及び、検出速度は定格仕様どおりか。
- ・ 電源電圧変動・温度変化は定格仕様範囲内か。
- ・ その他定格仕様範囲外の条件で使用していないか。
- ・ 投・受光器のレンズ面にゴミ、ホコリ等の異物が付着していないか。

## 9. 予備品

予備品のご注文の際は、当該製品の弊社製造番号（シリアルナンバー）と部品名称をご指示ください。

製造番号はテーパ管の目盛の下側に記載してあります。

製造番号例： F21-123456-78

弊社での製造記録の保存は、製造から5年間となっております。製造から5年以上経過した製品については一部製造記録が無く、製作仕様をお問い合わせする場合や部品製作ができない場合もあります。あらかじめご了承ください。

## ■ サービスネット

製品の不具合などの際は弊社営業担当か、弊社営業所までご連絡ください。

営業所については弊社ホームページをご覧ください。

## ■ 製品保証

弊社ホームページをご覧ください。